教育コンテンツプラットフォーム（仮称）検討資料

2018/11/13

kcg.edu

© kcg.edu

本日議論・検討したい事柄

kcg.edu

1. 連携状況についての報告
    1. iCD協会との連携
    2. enPITとの連携
2. 授業の設計
    1. 単位認定を見据えた設計案の提示
        - スキルと授業の対応
        - 授業の構成
3. プラットフォームの設計
    1. 構想と利用イメージ（振り返り）
    2. 機能についての検討
        - 授業の構成単位認定を見据えた利用イメージ
4. 推進に関わる戦略
    1. 予算検討について参考資料
    2. 今後の進め方について

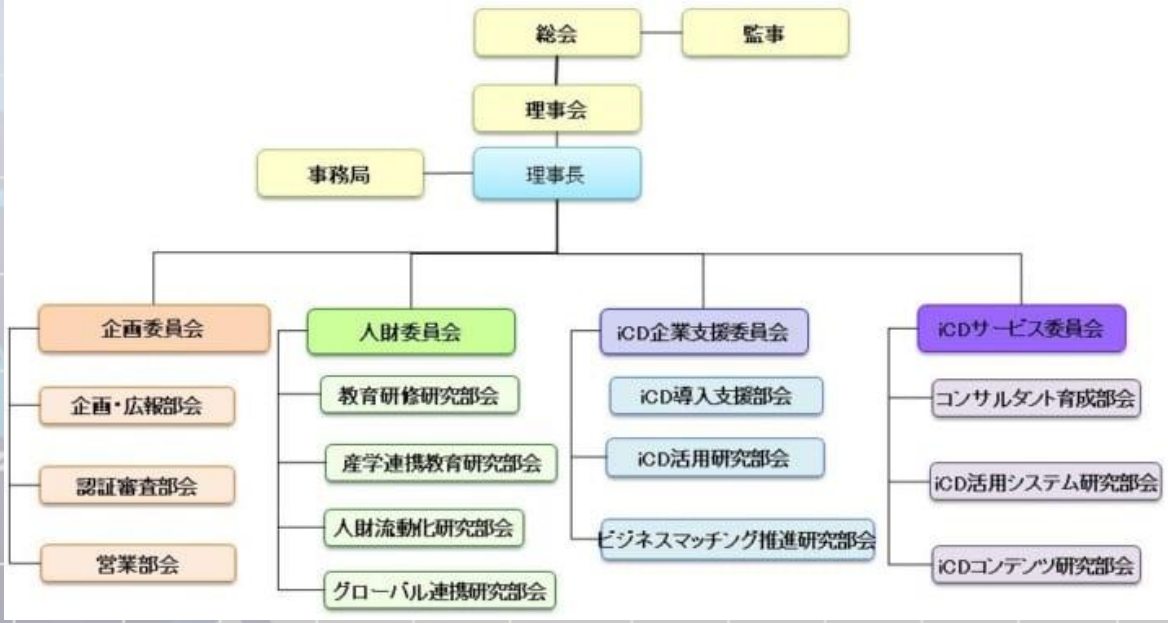
© kcg.edu

現時点での関係機関との連携状況

１　連携状況についての報告

1-1 iCD協会との連携 ❯ マッピングが可能に

kcg.edu



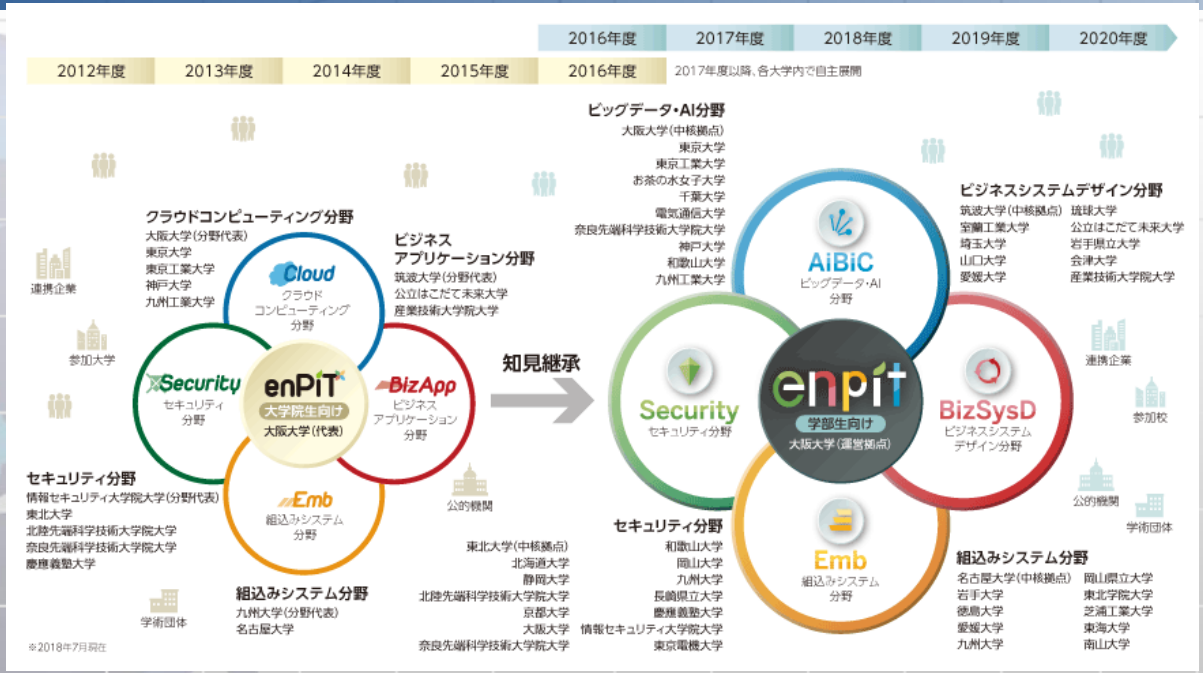
（図）iCD協会HPより https://www.icda.or.jp/info/organization/

- iCD協会には約20社の教育コンテンツを扱う民間企業およびいくつかの大学等が加盟
- 人財委員会において各々の教育コンテンツのiCDへの紐づけを行っている
- ここにIT連教育委員会としても協力し、本プロジェクトを進めために互いに連携する予定（現在調整中）

© kcg.edu

1-2 enPITとの連携 ❯ マッピングが可能に

kcg.edu



（図）enPITホームページより http://www.enpit.jp/about/concept.html

- 文科省の進める「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成（enPiT）」は，情報技術を高度に活用して社会の具体的な課題を解決できる人材の育成機能を強化に向けて産学協働の実践教育ネットワークを形成し，課題解決型学習（PBL）などの実践的な教育を推進する取り組み
- 関係者と連携・協力を取り付け（済），各大学へ訪問・連携（予定）カリキュラムへのiCDへのマッピング自動化を模索する研究取組もある

© kcg.edu

マッピングしたコースをどう関係付るか（スキル項目と授業の対応）

２　授業の設計

2-1 授業の設計（スキル項目と授業の対応）

kcg.edu

➔ 単位認定を見据えると以下のような設計が望ましい

- 1スキル項目＝1科目
  - 現状1スキルにフォーカスした講義や研修は少ないと思われるが，受講者の立場からすると1対1対応が理想。
- 1科目=N単位
  - スキルに必要な知識量や技術力などで変動
- 1単位=講義15時間（通常45分×15回）＋テスト
  - スキルに応じて単位数が変動するが，整理しやすいので，整数倍が望ましい。
  - ただし0.5単位(7.5時間。45分×7回半）程度は許容範囲。
  - 単位認定や学位認定上整合性が取れていればよい。

© kcg.edu

2-1 授業の設計（単位認定を見据えた設計）

kcg.edu

以下の１～６をまとめて「授業」と定義する。

1. 講義計画とマテリアル（Course Architect）
   - あるスキルの習得に必要な講義内容（どのような順番で何時間かけて何を学習させるか）を設計し，コンテンツ（スライド，課題など）を作成する
2. 講義運営を円滑に遂行する上での諸活動（課題の指示など）（Course Navigator）
3. 講義（Lecture）
4. 個別対応指導（Mentor）
5. 評価（Testing）
   - テストを実施し，成績づけを行う
6. 単位認定（履修証明の発行）

- 以上の授業がインターネット経由で行えるシステムとする
- さらに，受講者学生の評価と，企業側からの評価が行え，かつ閲覧できる仕組みにする

© kcg.edu

2-1 授業の設計（懸案事項）

kcg.edu

- 教育コンテンツの作成
  - 各スキルの各科目につき，シラバスの各モジュールを示すものくらいは，予め用意する必要がある。マテリアル作成のたたき台になるもの。
  - そのシラバスに従い教育コンテンツPPTを作成する。(科目担当者。自由参加)
  - そのPPTを使用して，動画で講義を行う。(大学等の教員もしくは提携業者等)

© kcg.edu

利用イメージと
追加すべき機能について

３　プラットフォームの設計

3-1 構想と利用イメージ

国内最大のIT業界の団体であるIT連においてこの国の抱えるIT人材不足という社会課題を打開すべく産学官で連携が可能な人材育成の支援・強化を行うプラットフォームを立ち上げます。仕事（タスク）を遂行できるスキルの取得に直結するよう、IPAの作成したiコンピテンシーディクショナリ(iCD)を応用し、求められる人材像と対応するスキル＝受講する講座を割り当てワンストップでの人材育成を円滑にします。

IT企業において求められる人材は
変化、多様化しています

しかし、スキルアップをしようと思う人材はどのようなキャリアを望むべきか不透明なためスキルアップへの動機づけに繋がっていません

世の中にはたくさんの教育コンテンツが
存在していますが…

しかし、一括して自分に合った講座を見つけるのは困難で、また仕事にどうつながるか、明確になりづらい状況にあります

そこで

人材モデルを定義
担う役割・仕事（タスクを定義）

人材像例：ビジネスアナリスト

担う役割（タスク）

- 市場動向の調査・分析…
- ＩＴサービス戦略の策定
- ＩＴ製品戦略の評価
- 最新技術の研究・検証
- テクニカルサポート

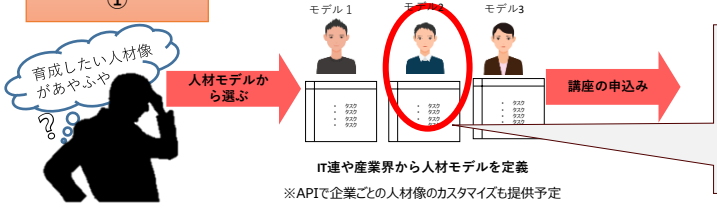
仕事遂行に必要なスキル
スキル取得ができる講座

世の中にある多様な講座から
対応するものをピックアップ

- アンケート入門
- ITサービス導入による システム運用改善
- ITサービスマネジメントＷＳ
- サービスマネジメントにおけるデータ分析
- 事例から学ぶ先端技術動向

利用イメージ ①

社員教育の道筋づくりに　～タスクからスキル

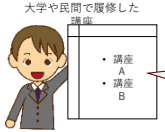


必要なスキル一覧から世の中にある多様なコンテンツからタスクを遂行するためのスキル取得に直結する教育講座のみをピックアップ。ワンストップで申し込み可能に！

Society5.0を迎え、産業構造の急激な変化からビジネスモデルの変革を求められる中、IT連での産業界の声を踏まえ、育成したい人材モデルを設定。i-Comp上に示された人材モデルから選択すると、その人材が遂行するタスクと対応する講座をピックアップできます。その人材になるために必要なスキルに応じ、講座への申し込みがワンストップで可能に！また、プラットフォーム上でコースの評価や感想などの口コミが一目でわかります。

利用イメージ ①

求職者の保有スキルの可視化に　～スキルからタスク



募集職種例（データサイエンティスト）に対し
履修済の科目はデータベース演習、統計分析演習、Ｒ演習の３科目。ここにデータマイニング、ナレッジマネジメント、データドリブンビジネス入門などを追加で学習して理想の人材像をめざす

※また資格・学位取得支援機能も追加予定

求職者：スキルの過不足がわかり、目指す人材像から講座を選択して主体的に学ぶきっかけづくりに！
採用側：募集職種の担う仕事について受講履歴や仕事経験をもとに、照らし合わせ客観的に把握できる

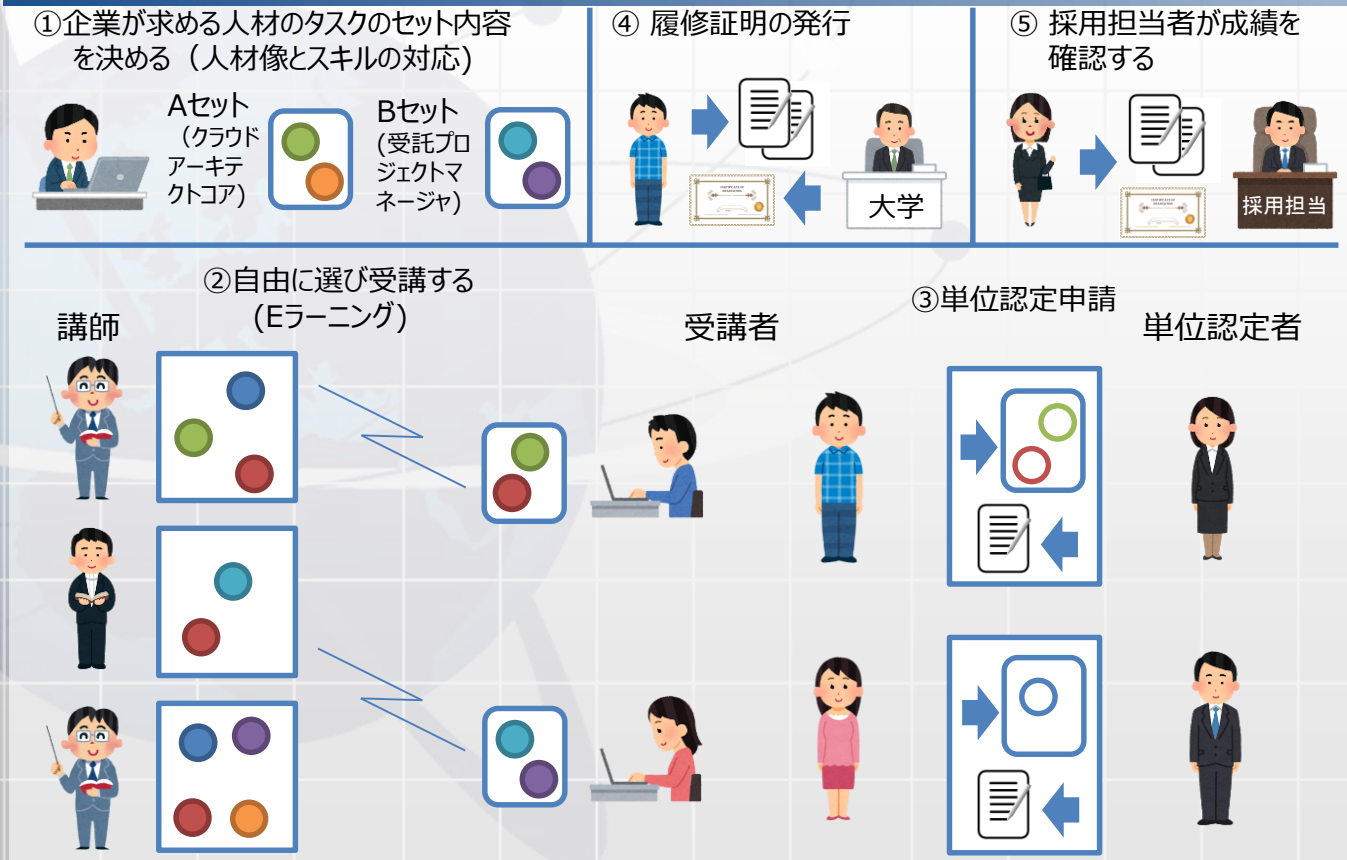
追加予定の機能

★どのような機能が求められるか?

- ポータルサイトからの決済
- ポータルサイトからの申し込み
- 資格毎の関連講座一覧
- 講座申し込み機能との連携
- 資格試験の申し込み機能との連携
- 学位毎の関連講座一覧
- 学位（単位）認定機関（大学等）との連携

3-2 プラットフォームの機能要件について
IT教育プラットフォームの利用イメージ（単位認定を見据え）

kcg.edu



- 企業による人材像の定義からEラーニングによるスキル習得，採用時の学習成績の照会までをトータルで支援する。
- 人材像から講義までのマッピングはiCDを使用。
- 企業側は受講状況や成績を細かく確認できる。
- 利用者はプラスアルファとして，④の履修証明を学位取得に繋げられる。
- 大学が授業の内容や実施状況を把握し保証する。それが確保されていれば単位認定や履修証明，授業を企業に外注することも可能。

© kcg.edu

今後の進め方について

４　推進に関わる戦略

4-1 予算化について（参考）

kcg.edu

- 機能を選定し、既存のツールやLinkedinのAPI等をもとにユーザフローを検討中。新規での開発を最低限に

LinkedIn Learning API Over

2017/12/20 • 読了までの所要時間: 2 分 • 共同作成者

What is LinkedIn Learning?

LinkedIn Learning is an online learning platform that combines the indu
LinkedIn's professional data and network. LinkedIn Learning is built on

- **World-class content:** Our library of 9,000+ digital courses are tau
  of business, creative and technical topics, from leadership "soft sk
  We're always evolving the Lynda.com library, adding at least 25 cc
  skills you need to stay current. Plus, we also offer courses in Germ
- **Data-driven personalization:** We get the right course in front of y
  comes with our network, LinkedIn Learning creates personalized r
  discover which courses are most relevant to their goals or job fun
  to customize multi-course Learning Paths to meet their specific ne
  reporting to help you measure learning effectiveness.
- **Anytime, anywhere convenience:** It isn't enough to know exactly
  to take. Our courses are broken into bite-sized segments that can
  off. Learning content is recommended throughout your LinkedIn.com experience, helping you easily discover
  relevant courses, and the content can be integrated with a learning management system.

API Usecases

Create your degree button

Simply create an "Add to profile" button and place it in your emails and website. With a single click, your graduates can add your degree to their LinkedIn profiles.

Use this HTML to add a Degree "Add to profile" bu
website.

```
<div><a href="https://www.linkedin.com/profile/ad
rel="nofollow" target="_blank"><img
src="https://download.linkedin.com/desktop/add2pr
alt="LinkedIn Add to Profile button"></a></div>
```

You can also use this link for users to directly

```
https://www.linkedin.com/profile/add?startTask=SCI
```

Create your certification button

Simply create an "Add to profile" button and place it in your emails and website. With a single click, your users can add their certificates to their LinkedIn profiles.

Use this HTML to add a Certificate "Add to profile" button directly into your emails or website.

```
<div><a href="https://www.linkedin.com/profile/add?startTask=CERTIFICATION_NAME"
rel="nofollow" target="_blank"><img
src="https://download.linkedin.com/desktop/add2profile/buttons/en_US.png "
alt="LinkedIn Add to Profile button"></a></div>
```

（参照元）https://docs.microsoft.com/en-us/linkedin/learning/overview/および
https://addtoprofile.linkedin.com/#certs

© kcg.edu

4-2 今後の進め方

kcg.edu

- WGの設置

- IT連としてモデルの人材像について議論
- IT連でのオーサライズ
- IT連を通じた働きかけ
  - 教育コンテンツを持っている企業へ
  - 受講してもらうための働きかけ

© kcg.edu